

P8310789.JPG 2019/03/22

明治元年九月十八日より明治元年九月二十二日まで

P8310789right

(前ノ内) 第七時出立、十一時半前の内君塚方え着、土着の都合を頼み、金方□円を托す、携品ガラス井、西洋製額鏡、同酒一瓶同画一枚を贈る、厚遇せらる一泊
十九日巳 薄陰

(富田高野) 午下第二時叔母同道、且富田高野常司出迎案内により一同出立、第五時過同方え着、和馬具一式、箱入ビンを贈る、頼み事件は前の内同様にて金方百五十円を托す、同家え同居等の御届振打合等いたす一泊

廿日午 陰終日

屋敷内一見□居の地等、粗□儀□是、叔母を遣し常司同道、(立出孫□を召連る)

第十一時半算村午休

「船頭給」

此行は富田、高野より乗下馬等を出せり、第六時半船頭給村着菜助は遠方出添に付糸之助贈り托金は無し土着の吹フク殖シ等いたす、是また厚遇せらる、無程菜助帰り来る五左衛門同道

P8310789left

し来り何れも沸フク酌し一泊

廿一日未 陰乍晴

猶此の如く常司持馬を仮り同人同道、第十時立出東金午休、此地迄菜助方より案内の者を出せり、菜助え堅シ幅、唐墨を贈る

「極楽寺」第六時極楽寺、山本え着叔母先達で来り居り、木原(未亡人名いと)来会、次左衛門同役孫左衛門なるもの

来りて一同会酌厚遇せらる、携品(ガラス井、西洋製額鏡面)を贈る、前同様の事件を頼み金方二百円を托す、一泊

同方えも常司同行す、富田、高野居場地ならし並荷物運輸入費用也として三拾円を預ける
廿二日申 晴雲

叔母より両町野口(山本次郎)富沢並宅□等え書状五通届け方、但主人より巢鴨次郎左衛門え届物(麻上下袱包)を托せらる

叔母並常司等に別を告、第十二時出立同家より案内の者、並馬等を出し呉、第六時登戸着旅籠店

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。